

送 り 先	MB (北陸) システム営業課 御中	丸善 (北陸) 営業課 御中	陸支 営業企画部	陸支 公共ビルシステム部
	七宝 システム事業部 御中	NES 情報システム課 御中	(富山) 電力部	(金沢) 半導体・電子デバイス部
	JMC 営業課 御中	北菱 情報機器課 御中	FAシステム部	FAシステム部
	エム・アイ・エス 御中	MCC (北陸支所) 御中	公共ビルシステム部	電子・情報通信部

陸支 (富山) コ課

# 陸支コ課情報

No. 32

## 内容

- ・新製品情報 AMITY SV 新機種
- ・インターネットについて 第1回
- ・パソコンと視力について
- ・情報誌トピックス — 情報誌は発行責任者保管
  - 日経コンピュータ 5月1日号
  - 日経エレクトロニクス 5月8日号
  - 日経パソコン 5月8日号
  - 日経バイト 5月号

ソフトウェアはSRCへ！  
キャンペーンも随時実施中  
詳しくはSRCニュースを

## 発行責任者

三菱電機株式会社 北陸支社  
電子・情報通信部 コンピュータ課  
稲崎義明

## (新製品情報)

### 三菱ペンコンピュータ「AMITY SV」新機種発売

#### (発売機種の概要)

ペンコンピュータ「AMITY SV」シリーズに、業界最高仕様の新モデルを追加し、4/28より発売。

- ・型番 M3017-A10
- ・CPU i486DX2-50MHz
- ・メモリ 標準4MB (8MB又は20MBまで増設可能)
- ・HDD 100MB
- ・表示 半透過型10.1インチモノクロ液晶  
1024×768、モノクロ16階調  
バックライト付 (ON/OFF可)  
カラーディスプレイ同時表示可
- ・PCカードスロット JEIDA Ver4.1/PCMCIA 2.1準拠  
TYPEⅡ×1スロット (標準)  
TYPEⅢ×1スロット (オプション)
- ・入力装置 デジタイザペン (電磁誘導方式、コードレス専用ペン)
- ・外部インターフェース キーボード  
外部CRT (CRT変換ケーブル必要)  
拡張コネクタボックス (オプション)
  - └ RS-232C
  - └ プリンタ/FDD
- ・電源 ACアダプタ  
バッテリー (オプション)  
本体に2スロット装着可  
駆動時間: 約4時間 (バックライトOFF、HDD5%、CPU50%)
- ・OS MS-DOS6.2/V、Windows3.1、Windows for PEN 1.1
- ・外形寸法 A4サイズ (293×210×22)
- ・重量 1kg (バッテリー、ペンを含む)
- ・価格 398,000

#### (特徴)

- ・高精細SVG A表示 半透過型の液晶を開発し、日中の屋外などでの画面が見易くなりました
- ・高性能CPU採用 業界最高速のi486DX2-50MHz
- ・軽量コンパクト 22mmと薄くし、重さは最軽量の1kg
- ・長時間バッテリー駆動 リチウムイオン電池を採用1パックで4時間、2パック搭載可能で8時間の使用が可能
- ・バックライトのON/OFF制御 バックライトをOFFすると、反射型液晶として使用可能
- ・大容量HDD 100MB標準でPCカード (TYPEⅢ) 追加で270MBまで拡張可能

## 1. インターネットとは？

インターネットという言葉が、この頃いろいろなところに出てきています。マルチメディアという動きとともに注目を浴び、この頃は月刊の雑誌も発行されるようになってきたインターネットですが、実際はどのようなものなのでしょう。何か言葉ばかりが一人歩きをしているような感じです。

インターネットは、コンピュータネットワークのネットワークと表現されています。ここでいうコンピュータネットワークは、大学内のネットワークや企業内のネットワーク等で、インターネットはそれぞれのネットワークの間を接続するネットワーク、地球規模のネットワークとすることができます。

インターネットは、1969年にアメリカ国防省高等研究計画局が運用を開始した核攻撃にも耐えられる連邦政府の研究センターを結ぶARPANetがその原点です。初めはコンピュータ間を結ぶ形のネットワークでしたが、1970年にはパケット交換網によるネットワークが4大学の間で始動し、さらに、1974年には現在標準となっているTCP/IPプロトコルが発表採用されるようになってきました。またこれとは別に、全米科学財団(NSF)が1979年に大学などのコンピュータセンタを結ぶコンピュータ科学研究ネットワークを作り、1980年にARPANetとの接続が行われ、現在のインターネットの原形となりました。その後、軍用部分はMILnetとして分離され、1988年には全米科学財団が全米各地のスーパーコンピュータを共同利用を目的に接続したNSFnetを構築し、1990年のARPANetの廃止によってインターネットの基幹的なネットワークとなっています。

このようにインターネットは軍事目的で出発し、学術ネットとして成長しましたが、現在は使用目的の限定や商用利用の制限などが無くなったため、インターネットの利便性がビジネスで利用できるようになり、最近のブームとなってきています。

同じネットワークでインターネットと少し違うものにパソコン通信があります。パソコン通信には、ニフティサーブ、ASCI I等のほかに、MAXYネットなどがあり、ホストコンピュータと接続することによって、電子メールや電子掲示板などを使うことができます。この点は、インターネットと同様ですが、パソコン通信の場合はホストが中心となった閉じられた範囲のものとなります。現在パソコン通信の利用者も増えていますが、これからはインターネットへの入り口としての使い方が増えていくものと考えられています。つまり、インターネットを活用するために、まずパソコン通信にはいり、その中のインターネット接続サービスを利用してインターネットの主要な機能を使うことが、個人で使う場合にはいろいろな面で使い易くなっています。

インターネットは、日頃利用しているテレビや新聞、雑誌、電話や通信、FAXなどが可能となった複合的に活用が可能なネットワークです。今後はいろいろな面がかかわりになっていくものと考えられます。(つづく)

## パソコンと視力について（日経パソコン5／8記事抜粋）

### 1. パソコンと視力の低下について

パソコンを使い始めて視力が低下したという話は良く聞きますが、どの程度視力低下の原因になっているのかというと、パソコンの場合、ディスプレイのように近くを見続けていることによって、疲労や一種の「慣れ」のせいで遠くにピントをあわせる調節機能が低下する仮性近視になりやすいことがあげられます。仮性近視であれば、十分な休息をとることによって目の調節力を取り戻し正常な状態に回復することができますが、この段階でさらに酷使すると自然な回復は望めなくなります。

### 2. メガネとパソコンについて

近視になると遠くを見るためにメガネを利用することになりますが、近視用のメガネを使用している場合、メガネは目にとっては遠くにあるものを近くに引き寄せる効果があります。つまり、0.2の視力を1.0にするメガネの場合、5m離れたものを見ると、水晶体としては40～50cmの位置にあるものをみている場合と同程度になります。このようなメガネをかけてディスプレイを見ることは、裸眼であればディスプレイのすぐ近くで見ることと同じこととなり、より水晶体を厚い状態で見続けることとなり、目を酷使し、より視力の低下をまねくこととなります。つまり、「**メガネが視力の低下を加速する**」ということが出来ます。

### 3. 50センチメートル視力について

パソコンなどを使用する人のうける検診にVDT (Visual Display Terminal) 検診がありますが、その標準測定項目に50センチ視力があります。50センチ視力は机上のディスプレイをみる力を測定する指標となるもので、通常の5メートル視力が悪くても50センチ視力がよければ（0.6程度以上）、メガネ無しで楽にパソコン画面がみられることとなります。つまり、ディスプレイ上の文字が裸眼でも楽にみえるならメガネをかけずに作業をし、見えなくても50センチ視力が0.6～0.8程度になるように調整した特別のメガネを用意したほうがよいといえます。また、遠視の場合、5メートル視力がよいのに近くが見えにくいいため目の負担が大きくなるので、視力がよいのにパソコンを使うとひどく目が疲れるという場合、遠視の可能性もあります。

### 4. 視力を低下させないためには

視力を低下させないためには、もっともよいのはディスプレイを見ないことですが、そういうわけにはいかないのです、まず大切なのは休息が一番です。1時間に10～15分の休息は必要です。それ以上続けても効率も低下します。次に気をつけるのはディスプレイと周囲の明るさです。違いすぎると瞳孔の動きが激しくなり、疲れの原因になります。また、原稿が白地に黒であれば、画面も白地に黒に近いものにした方が目の負担は軽くなります。ただし、白地の画面はちらつきを感じやすいので、垂直走査周波数が60～70Hz以上のディスプレイが眼にはやさしいこととなります。メガネも、50センチ視力にあわせたものを用意するほうがよいです。

## (情報誌トピックス)

### ○経コンピタ 5月1日号

特集 95～97年度コンピュータ市場展望

C/Sが浸透、再び成長へ

→95年度に我が国のコンピュータ市場は前年比で3%成長し、96年以降も4～5%ずつ伸び、ゆるやかに回復基調へ戻る

復調を牽引するのはC/Sで部門サーバの需要が増加し、全社ホストはゆるやかに減少していく。

クライアント市場は97年に最大の市場となり、パソコンが9割でUNIXも残る

ソフト/サービスは95年に底入れし、96年から回復基調となるが、新規サービスの開拓が成長には不可欠

NCトレンド オープンシステムの製品シェア

UNIXが後退、DOS/Vが急伸

パソコンの「円高値下げ」は期待薄

新興ベンダは海外調達で攻勢

→海外調達率の高い製品は値下げが可能

### ○経エレクトロニクス 5月8日号

特集 電子機器からハンダの鉛を追放へ

→廃棄されたボードが酸性雨を浴びるとハンダの鉛が溶けだし、土壌や地下水を汚染する。防止のためにハンダの鉛を規制する動きがあるが、代替品はまだ完成していない。

#### 1部 <鉛規制とハンダ>

廃棄された機器の鉛が問題に、はんだ材料の見直し始まる

→廃棄された機器からの鉛流出が問題となり、規制されようとしているが、電子機器メーカーは鉛を使わないハンダの開発などを始めているが、開発は容易ではない。

#### 2部 <理想のハンダ付け技術>

従来と同等の性能・価格を目標に、鉛フリーハンダ付け技術を開発

特集 ビデオCD向けMPEGチップ

→ビデオCD規格を搭載する機器が、パソコン、ゲーム機などへの標準搭載が始まっている

#### 1部 <規格の広がり>

ビデオCD搭載機器が続々登場

→ビデオCD対応製品は、カラオケのほかにパソコンやゲーム機にも対応始めた。パソコンは広まりそうだが、AV機器への普及は難しい

#### 2部 <LSIのサーベイ>

周辺回路の取り込が進む

→周辺回路としては、オーディオ復号化回路、パソコン向けにはグラフィックアクセラレータ、AV機器向けにはアナログ出力回路など

○日経BP 5月8日号

特集 電子データを使いこなす

CD-ROM、パソコン通信、インターネットは宝の山

→オリジナルデータベースを構築するために活用することのできる電子データについての紹介

第1部

新聞・時事情報 情報を効率的に集める

企業・人物情報 売り込む前に得意先の情報を知る

官公庁・専門情報 専門データで説得力を増す

辞典・事典・図鑑 見出し、全文から自由に検索

インターネット 広大な情報の原野に遊ぶ

趣味・生活情報 知的好奇心をデータで満たす

活用編

電子データを120%活用するための道具

特集 プリインストールパソコン、その実態を探る

バンドルソフトの中身は？サポートは？

→ソフトをプリインストールして販売しているパソコンが多いが、このようなパソコンの登場した背景と、ソフトの動向、パッケージソフトとの違いについて紹介

レポート 電子メール導入てん末記

→日経BP編集部への電子メール導入てん末記、9割のユーザが便利さを実感、運用上の問題点も浮上

パソコン作業で視力がどんどん悪くなる

→視力を低下させないためには、窓の光はカット、画面と周囲の明るさが違いすぎるのはダメ、度の弱いメガネを用意する、何と言っても休息

○日経BP 5月号

特集 I n t e r n e t を使いまくる

→日経BP社内LANがI n t e r n e t に接続したのを契機に使いまくる実験を行った

第1部 総論

I n t e r n e t を存分に「使いまくる」計画

→用途は、パソコン通信用の電話回線の置き換え、社内LANへのリモートアクセス、WWWサーバの実験稼動

第2部 W i n d o w s ネットワーキング

ワールドワイドLANをI n t e r n e t 上に構築

→I n t e r n e t 経由のW i n d o w s ネットワークの構築

第3部 WWWサーバ実験稼動

SQL Serverを用い、インテリジェント化

第4部 Internetツール

Windows 95をにらみ様変りする実現形態

→現在Windows 3.1でInternetにアクセスするには、TCP/IPプロトコルとInternet用アプリケーションが必要だが、独自APIを用いたアプリケーションが少なくなく、プロトコルとの組み合わせでは動作しないこともある

トレンド 企業／家庭用機器が持つ理想と現実のギャップ

→企業用と家庭用と用とで製品系列を分ける動きがあるが、それぞれに理想と現実にギャップが出てきている

解説 次世代グラフィックスは3次元とMPEGがカギ

→年末から3次元グラフィックス機構やMPEG-1を備えたグラフィックス制御チップが登場してくるが、3次元グラフィックスはゲーム市場に使われ市場性があるが、MPEGはほとんどのメーカーが積極的に取り組んでいるが市場拡大は望めないとするメーカーが多い

新製品 NetWare 4.1J

事実上、3.12Jの後継となる公算が大きい